

令和5年度

『二十歳のつどい代表が市長と語る会』

報告書



©稲沢市いなッピー

令和5年11月27日（月） 午後7時～午後8時30分
稲沢市役所 政策審議室

二十歳のつどい代表による提案・要望

令和6年1月7日（日）の二十歳のつどいにおいて、司会進行、アトラクションの企画運営を担う代表31名が4班に分かれて、以下のとおり稲沢市に対する提案・要望をまとめ、令和5年11月27日（月）に稲沢市役所で市長と直接意見交換を行いました。

- 1班・・・「福祉の充実」
- 2班・・・「いなふえす」
- 3班・・・「はう とう ゆーず 稲沢の金」
- 4班・・・「稲沢市の安全性向上に向けて」

【提案・要望：1班】「福祉の充実」

稲沢市の福祉を充実させるために障がい者等に向けての支援制度について提案があります。稲沢市の障がい者等に対する支援制度に関して、良好な点は多くありますが、さらなる改善があると考えます。現在の障がい者福祉サービスは、資金や移動の支援などがあります。さらに、高齢者や障がい者向けの食料配達サービスも提供されています。また、医療費は0歳から18歳まで負担されており、子供たちの健康を守るために重要なサポートが行われています。今回、障がい者への支援に焦点を当てて稲沢市の福祉について発表しますが、障がい者のみならず、怪我や病気の人への支援等も視野に入れて、稲沢市の福祉の充実のための具体案を考えました。

まずは、移動支援の拡充です。障がい者だけでなく、怪我や病気によって日常生活の移動が困難になった市民に対しても移動支援をするべきです。現在の福祉サービスでは、怪我や病気で一時的に体に不自由が生じてしまった人へ対しての生活面での支援が少ないように感じます。急な生活の変化がより私たちに不自由さを感じさせると考えます。そういった人たちにこそ手厚くサポートをすることで稲沢市がより住みやすい街になっていきます。具体的な案を二つ考えました。

一つ目は、現在のタクシー料金の助成利用券の交付対象者に、重度な怪我や病気の人を追加することです。そして、交付枚数を年間最大24枚のところを48枚にし、一か月を4週間として1週間に1回はタクシー料金の助成利用券を使えるようにします。

二つ目は、より多くの障がい者や病気・怪我をした人に交通に関する助成や補助を受けてもらうために、支援申請のハードルを少しでも下げることです。現在稲沢市のホームページには、障がい者に対する支援についての「JR・私鉄・路線バス等運賃の割引」という欄に、「運賃等の割引の詳細は各社にお問い合わせください。」とあり、これでは不親切に思えます。タクシー料金の助成をはじめとするその他の障がい者への支援制度のように、利用区間・障害の重さ等による助成額や申請方法、対象者を明示する必要があります。

次に、医療費免除の対象者拡大と充実した補助制度です。

医療費免除の対象を18歳以上の大学生まで拡大することを提案します。一人暮らしなど新たな生活を始める大学生にとって医療費は重荷となります。そのため、豊田市や春日井市、東海市では大学生の入院費を助成しているように稲沢市も大学生まで医療費を助成するべきだと考えます。

また、国民健康保険で給付対象になる項目や補助制度を増やしてもよいと考えます。

例えば、正常な妊娠および分娩、健康診断、予防注射、工作中的怪我などを対象に入れるべきだと考えます。医療費は健康に生活していく上で必要になってくるものであり、それを少しでも市が助成できれば市民の生活はより豊かなものになると考えます。

また直接的な医療以外の部分で、同時に見直してほしい補助制度があります。

稲沢市は医療用ウィッグを購入する際2万円の補助があります。ですが、これはがんの方に限った補助であり、難病で抜けた方には使用できない補助です。がんも指定難病も同じ身体的、精神的負担であると思います。しかし、現在日本のほとんどの市区町村はがんの方への対象です。福井県の南越前町では難病を対象にしており、他の病気の方まで目が届いている制度であると感じました。医療用ウィッグのみに限りませんが、補助を受ける対象が広がるといいと思います。

日本では知っている有名な病気に対しての補助、障がいの方への補助が増えていく中で、障がい手帳は貰えなくても通常どおりの生活ができない人に対する保障は少ないように感じます。

少しずつでも困っている人を助けられるような保障制度を作って誰もが住みやすい稲沢市になるといいなと思います。

今回は障がい者、病気や怪我をした人にクローズアップした支援制度について具体的な提案をしました。実現に至るまでには相当な費用や労力がかかることは承知の上で、より良い稲沢市にしていきたいという信念を持ち、考え、提案しました。もし仮にこの改善案が実現したとするならば、きっと市民の健康と福祉を守り、稲沢市民の社会的な活動を支える役割を果たすと考えます。健常者だけではなく、誰もが暮らしやすい街にしていくためにも前向きな検討をよろしくお願いします。

【回答：市長】

通常の怪我や病気は傷害保険に加入していると思いますので、保険適用によって3割負担で済みます。そういった中で、症状が好転せず後遺症が残ると、身体障害者の認定を受けて、身体障害者に対する様々なサービスを受けられる制度となっています。

公共交通機関の障害者に対する割引については、障害の上肢下肢、内臓系というように細かく分けられています。過去に自動車販売を行った経験がありますが、身体障害者の方が自動車を購入すると、所得税が減税されますが、手帳だけでは判断できない場合が多いです。そのくらい細かいため稲沢市のホームページでは、各公共交通機関のホームページを見てくださいます。今後わかりやすい表記等に努めて、改善をしていきたいと思っています。

タクシーの利用券を48枚に増やす件については、重度な怪我や病気の人でも治るか治らないかの問題があり、障害者の認定を受けるとサービスを受けられ、一定の金額を超える場合は、高額医療費の補助で返ってきますので、等しくみなさんが健康保険の中からサービスを受けていただくのが制度であります。また、おでかけタクシーを実施しており、75歳以上の高齢者、障害者手帳をお持ちの方、妊婦さん、産後の方に一定の期間はおでかけタクシーを半額にしておりますので、ご利用いただければ少しでも助かるのではないかと思います。

医療費の件につきまして、稲沢市は令和5年から18歳以上の大学生も入院・通院費を無償化したばかりです。豊田市や春日井市、東海市は24歳まで入院費を無償にしており、費用の面で考えていかなければならず、今すぐは難しいが今後検討していきたいと思っています。

国民健康保険で補助対象の項目を増やすことについては、正常な妊娠や分娩は病気ではないのが基本的な考えであり、出産育児一時金が令和5年から50万円に増額されました。通常の分娩ですので入院をされて、このあたりの産婦人科で出産する場合の費用というのは平均で、約45、46万円です。そのまかなうことはできるのではないかと思います。国が異次元の少子化対策として、これを保険適用しようという動きも実は議論されています。国は令和8年度を目途に議論を進めるとしていますので、良いところに気づかれたかと思います。国で決まれば当然市も動きますのでよろしくお願いいたします。

予防接種については、基本的に病気になる前であり病気ではないため、保険は適用されません。定期予防接種の項目に指定されるものと、無料で受けられたり、あるいは高齢者のインフルエンザ等ですと補助を出したりしています。補助を拡大し、例えばおたふく風邪、流行

性耳下腺炎、帯状疱疹等に対するワクチンの助成も市では実施しております。

基本的に病気ではないものについては、保険の適用外ということが原則であるということです。怪我についても、仕事であれば労災というように区分けがされています。

医療用ウィッグの補助についてですが、全ての市町が行っていない中で稲沢市は実施しております。難病が対象外とのことで、他の制度を勉強して対応していきたいと思っております。

予算編成の中で、非常に厳しい。物価や人件費の高騰が背景にあります。市には予算というものがありますので、市民の皆さんからいただいている税金をどのように効率的に使うか、どのように使ったらみんなのために幸せを感じていただけるかというのを考えて、やっていきたいと思っております。

【提案・要望：2班】「いなふえす」

私は稲沢市の音楽シーンを盛り上げたいと考えています。

そこで提案するのが、「市内の大きな公園でフェスの開催・ストリートライブ解禁」です。

神奈川県川崎市や大阪府でのライブスペース設置の話聞き、ぜひ稲沢にも取り入れてほしいと思いました。現在稲沢では、いくつか音楽のイベントが文化フォーラムで開催されています。しかし、これを知っている若者は少なく、お客さんは年配の方が多いのが現状で、音楽をやりたい稲沢市の若者にとっても正直活動しにくいと思います。また、文化フォーラムという劇場に足を運ばなければいけないため、少々敷居が高くなっているようにも感じます。これらのイベントももちろん大切にしつつ、今回こちらを提案したいと考えました。

このイベントで音楽＝稲沢という新たなイメージを作りたいです。

①の内容：年に1回程度、街頭や稲沢の音楽スタジオ、ショッピングモール等で出演者募集をし、バンド・シンガーソングライターを中心としたフェスを行う。年齢別に出演者の部門分けをすると幅広い年齢層で楽しむことができると考える。また、出店やハンドメイド店なども一緒に参加できるとより盛り上がるのではないかと。

②の内容：月に1回程度、決められた時間・決められたスペースのみでストリートライブを許可する。

出演者を事前に募集し、内容を書き提出した上で行う。

主催者側が管理することとなるが、オープンマイクや誰でも使えるアコースティックギターを設置するのも飛び入りで音楽に触れることができるだろう。

この素敵な稲沢が新しく「若者の夢を応援できる音楽の街」としても知られるようになれば地域活性化に貢献できると思います。

以上より、「市内の大きな公園でフェスの開催・ストリートライブ解禁」を提案させていただきます。

【回答：市長】

まちの魅力を音楽で発信することは非常に良いことだと思います。例えば、ゆずもストリートライブからメジャーになったというようなことがあったり、YouTubeでも拝見したりします。駅前でも多くの人が集まると成立するが、稲沢市の規模ではなかなか難しいところだと思います。国府宮駅についても、再整備を進めようとしているが、なかなか進んでいないのが現状です。国府宮駅の開発で、市が広場にして小さなイベントを実施できるといいなと思っております。

公園については、提案にあった神奈川県川崎市や大阪府でのライブスペース設置の話というのは、神奈川県川崎市ちどり公園と大阪府吹田市万博記念公園にあります。公園においてフェスやストリートライブを行うには大きな音を出しても問題のないような近隣の環境であることが必要となります。ちどり公園については、空港に近い臨海部に位置し、万博記念公園内にあ

るもみじ川芝生広場については、264ヘクタールある大阪万博記念公園の中央部に位置しているため、両公園とも大きな音を出しても問題のない環境であるものと推察します。

市内に稲沢公園という大きな公園がありますが、あまり利用されていないということもあり、こういう場所で実施するのはいいかと思います。

市の税金を使い予算化して何かをすることを待っているのではなく、有志があつまり実行委員会みたいなものを作ったり、あるいは出演の交渉をしたりして、数組からでも何か始めるという気合をもった若者がでてきて欲しいというのが私の気持ちであります。

公園の利用やショッピングモールについては、なかなか市から働きかけるのは難しいですが、ある程度有名になれば、ショッピングモール側から話が来るようになります。

文化や芸術は、その町をPRするため、あるいは町の特色を出すためには非常にいい分野であると考えておりますので、ぜひ若い人たちの芽が育ってくること、どこかで自然発生的に出てくるということを祈っております。

【提案・要望：3班】「はう とう ゆーず 稲沢の税金」

良い市政を行っていくうえで、市民の声を反映することは重要です。そこで、市民の声を集めるために稲沢市の財源がどのように使われているかを市民が把握できるようにする必要がありますと私たちは考えました。

そう考えるようになったきっかけは、アルバイトを始めたことです。自分でお金を稼ぐ大変さを知り、頑張ってお金を自分で管理するようになったことで、「正しいお金の使い方」について考えるようになりました。また大人になるにつれて、税金に対する意識も高まり、自分の納める税金がどのように使われるのかが気になるようになりました。少子高齢化が進む中で若者が負担する額は増えてきています。それに伴い不安も募るばかりです。そんな不安を軽減させるためにも、税金がどのように使われているのか知りたいと思いました。二十歳を迎えて私たち自身も市を支える一市民となるということで、稲沢市のお金の使い方を知って、その是非を考えたいと思うようになりました。

このように、私たちのような市民が稲沢市の財源の使い道を知ること、その使い方が本当に正しいのかどうかを考える機会ができ、市民たちの中で「こういう風に使ってほしい」という望みが生まれ、それが市民の声となるということを理解しておきたいです。そして、その声が市政に届き反映されれば、稲沢市民の市政に対する信頼感が高まり、市の市民の結びつきはさらに強くなるだろうと考えます。そのような稲沢の市政を目指すためにも、市民に伝わりやすい情報を提供していかなくてはならないと思います。もちろん、どの分野にどの程度の金額が使われているかという決済状況のデータは存在するが、正直読み取りにくくわかりにくいと感じました。また、『一般会計予算を一般家庭の家計に例えてみる』という名前のデータは、確かに決済状況を確認するうえで難しい用語が簡略化されているが、改善点はあると感じます。

私たちの考える改善点は、4つあります。1つ目は、「稲沢市 財政」などとインターネットで調べた時に結果のトップに『一般会計予算を一般家庭の家計に例えてみる』のサイトが上がってくるようにすることです。いきなり読み取りの難しいデータを提示されては、そこで市政への関りをやめてしまう可能性があります。2つ目は、見始めやすく見やすいページにすること。今までの市のサイトのような硬いものではなく色・挿入画像・フォントを工夫したものにして見始めやすく見やすいページにすることです。3つ目は、グラフ・表を使用することです。せっかく市民にとって分かりやすいデータに変換したのに、そこで終わってしまっただけの表示になってしまい瞬間的に読み取りにくいです。視覚的に財源分配の割合を読み取ることができるようにグラフ・表を使用したいと感じました。最後は、各項目の具体性です。どの事業にどれほどの金額を使ったかのデータを簡単なものでいいから提示することができれば、市民が具体的な意見を持つことにつながると思われます。

実際に市政の結果を享受するのは市民であるから、彼らが決算状況の情報を確認できたならば、「この分野にもっと力を入れてほしい」、「あの取り組みはそれほど機能していない」などの意見を求めることができます。

以上のように、稲沢市の市政がどのように私たちの生活に結びついているかをより見える化するためにも伝わりやすい、分かりやすい、何より市政が身近に感じるような工夫をすることを私たちからの提案とさせていただきます。

【回答：市長】

用語が難しいという点については、全国共通で使用されており、財政は他市町と比較できなくてはならない、同じ括りで提示しなくては、比較できなくなってしまうという問題があります。そのため、民生費や総務費、公債費という形で書いてあります。日本の財政、地方自治体の予算も国の予算も総計予算主義があり、一つの事業に対する予算を全て積み上げて予算を作るという主義があります。あるいは、予算はひとつであるという単一予算主義、一年間の予算であるという単年度主義といったように、予算の決まりは4つ、5つあり、どの自治体も従わなければなりません。なぜかという、自治体同士で比較する際に、違った指標であると比較が難しいからです。そういった決まりがありますので、なかなか取っつきにくく、難しいということはよくわかります。例えば稲沢市を年収500万円の一般家庭の家計で例えているというのが掲載されており、わかりやすくはしていますが、分厚い議案書がありそれらに予算項目が記載されており、比較検討できるようにしなければなりません。

改善点の2点目、3点目の財政のグラフなどは作成し、広報にも掲載しております。グラフも示しておりますので確認してください。

用語の使い方については、民生費は基本的に福祉や社会保障のお金であると思って頂きたいです。稲沢市の財政状況をお伝えすると、例えば一般会計の500億円のうち経常的に必要な費用が9割弱となっており、1割しか自由にならないということです。500億円でいうと約50億円が比較的自由になるお金で、あとは社会保障のお金や人件費、前年度までの借金の返済である元利償還金や必要な建物維持管理の予算に使用してしている現状です。

各項目の具体性を確保するために、事業にどのくらい金額を使用しているのかということについては、HPや広報に掲載されますので確認して下さい。

税金の使い道はしっかりと関心を持っていただきたいですが、関心を持つためには、難しくても勉強をしていただくのが一つです。身近なところに市民から選ばれた議員も見えます。こういった方に、要望や情報を伝えたり、税金の使い道を聞いたりするのも一つだと思います。市民から選ばれた議員にはそういった役目も背負っております。

【提案・要望：4班】「稲沢市の安全性向上に向けて」

私たちの班から稲沢市への提案として、街灯設置による治安管理、安全管理について述べたいと思います。

稲沢市の中でも国府宮、稲沢駅周辺では地域発展が進み街灯や道路の整備などが行われているため、治安管理、安全管理がしっかりとされています。

しかし稲沢市の明治、千代田、祖父江、平和地区などの西尾張中央道より西側になると街灯がほとんどない地域が目立ちます。

街灯がないことで生じる問題が2つあると考えられます。

1つ目は子供達の安全の確保です。冬などになれば日が落ちるのが早くなり、学校の帰りであっても道路が暗くなるが多々あります。街灯があまり設営されていない地域では不審者の

目撃情報もちらほらと報告されています。このような環境では子供たちが安全に外で遊ぶことが出来なくなり、保護者の方々からの子どもだけでの外出などに対する抵抗も強くなってしまい、子供たちの健やかな成長を妨げる可能性があります。保護者の安心、子供達の安全で健やかな成長のためにも街灯は市全体に増設するべきであると考えます。

2つ目に交通安全の面での問題です。街灯がないことで歩行者を視認できず、交通事故が発生しています。また稲沢市は高齢化が進んでおり、街灯がないとそのような高齢者を視認できず交通事故が起こってしまう可能性があります。また高齢者が歩行者に気づかず、轢いてしまう場合も考えられます。お年寄りの方が住みやすい環境を作るためにも街灯の設置は必須だと思います。

稲沢市の今後の発展のためにも人口増加や経済への影響が顕著な地域への投資も大切であることは重々承知です。ですが、より多くの稲沢市民が老若男女関係なく快適で安心して日常生活を送ることが出来るような環境づくりのためにも、ぜひ街灯の増設をお願いしたいです。

【回答：市長】

毎年この話題は出てきており、若い人たちがよほど暗いと思っていらっしゃるんだろうなと思います。民家がまばらなところは確かに暗いです。実は、街灯の設置にはどうしても難しい点があります。それは農作物への影響です、街灯を設置することで植物の成長に影響を及ぼしてしまうからです。そのため、なかなか防犯灯が設置できていない状況です。

防犯灯は各区からの申請に基づき設置します。防犯灯について、稲沢市の補助で設置することができますが、その後の維持管理費については区の負担となっております。ただ、どうしても気になる場所があれば区長または区の役員に伝えていただきたいと思います。

愛知文教女子短期大学の方から、駅までの道が暗いという意見をいただき、令和4年度から稲沢ライトアップ整備事業を始めました。防犯灯の中でも、もう少し明るくて大きい交通安全灯を設置しました。

道路課が危険であると判断した箇所は77か所ありますが、令和4年に14か所、令和5年度は9か所実施しましたが、まだ残っております。徐々に実施していくこととなりますが、交差点でも暗そうな場所から順に行っていきますが、自分の家まで行く道路が暗いというような話ですと、まずは区長にお願いしていただきますようお願いいたします。

設置する上で、根本的な課題や問題があることについてはご理解いただきたいと思います。